

平成20年度

酪農専門技術員養成研修会（第3クール）

「搾乳方法」に講師として出席

九月二十九日から十月三日まで、釧路酪農チャレンジ60「946運動」（釧路地区酪農対策協議会主催）が展開する酪農専門技術員養成研修会（第3クール）が釧路農業会館において開催されました。この研修は、釧路管内農協職員を対象に一昨年より実施され、今年で三年目を迎えます。年間全3クール、各クール五日間の日程で幅広いカリキュラムで開催される集中研修であり、今年度は管内五農協から七名が受講されました。今回開催された第3クール

では乳質改善、繁殖生理、肢蹄病コントロールについてNOSAIからも講師が派遣され、初日午後のカリキュラム「搾乳方法」に、乳房炎部会から標茶支所虹別家畜診療課の山本が講師として出席し、「搾乳衛生」と正しい搾乳手順」というタイトルで二時間の講習を行いました。

九月二十九日から十月三日まで、な説明となつてしまったかな」と感じる部分も多々ありましたが、受講者の方々には熱心に聴講していただいたのが嬉しく感じました。また、今回の講習の資料には、以前に部会で作成したプレゼンテーションを用いました。新人獣医師のためのテキストとして使うだけでなく、外部講習の場にも使うことができ、と作ったもので、今回はその目的に活用することができました。

さて、一口に搾乳手順といっても、乳牛の乳腺の構造や泌乳生理の説明に始まり、さらに搾乳手順の一つ一つをきちんと説明するとなると大変な作業です。人前で話すのは大の苦手。流暢にとは全くいかず「不十分

搾乳手順と搾乳衛生については、以前にもこの紙面に取り上げたことがあります。今回の講習内容の紹介を兼ねて、もう一度簡単に説明したいと思います。

基本的搾乳手順と搾乳衛生

牛乳は食品であり、搾乳は食品製造そのものといえることができます。牛乳が安全で衛生的であるためには、搾乳作業は誰が見ても衛生的である必要があります。そして乳房炎を防ぐためには、乳牛の泌乳生理に合ったきれいで早く終わる搾乳がポイントとなります。

泌乳生理とは、射乳ホルモンであるオキシトシンの作用により、牛自

- (1) 搾乳前にシステムの殺菌と点検
- (2) 搾乳ワゴンの用意
- (3) 搾乳順序は若い健康な牛から、処理室に近い側から搾乳、高体細胞牛は最後に搾乳
- (4) ユニットを牛の傍らに持つてきてから搾乳作業開始、作業分担はしない
- (5) 手袋を装着し乳頭清拭前にストリップカップに各乳頭5回ずつ勢いよく前搾り



熱心に聴講する受講者と筆者

(6) 消毒液に浸した1頭1枚のタオルで乳頭のみを30秒かけて清拭

(7) 乾いた使い捨てペーパータオルで乳頭の水分を拭き完全に乾燥

(8) 乳頭刺激開始から1分後にティートカップを正しく装着

(9) 装着から5分以内にティートカップを4本同時に離脱

(10) ティートカップ離脱直後に、乳頭の下から3分の2以上にティッピング

場合バルク乳へのヨウ素の残留が問題になりますので、実施に当たっては十分な注意が必要です。

乳質改善には、この他にも搾乳システムや牛舎内外の環境整備、飼養管理など多岐に亘る知識と技術が必要ですから、酪農家と関係各団体が協力して一丸となった取り組みが重要と考えます。今回の講習が乳質改善のお役に立てれば幸いです。

(標茶支所虹別家畜診療課

山本 康了)

今回の講習では、プレディッピングについても取り上げました。現在はパーラーなどで普及しており、環境性乳房炎が問題となっている農場で実際に効果が認められてきている方法でもあります。プレディッピング剤として認可された製品を用いて、有効ヨウ素濃度0.1%に調整して使用し、30秒間のコンタクトタイムをとった後、確実に拭き取ります。タオルでの乳頭清拭に代わる部分なので、乳頭の汚れが少ないことが条件であり、また拭き取りが不十分な